

農村振興局長賞（被害防止部門（団体））

イノシシ被害の発生初期段階で、早期に総合的な対策や地域住民の知識の醸成などを実施し、被害を軽減。

^{ひみ}氷見市鳥獣被害防止対策協議会

主な取組

（会長：杉守 忠典）

富山県氷見市

平成21年に市内で初めてイノシシによる農作物被害が発生、平成22年に協議会を設立。平成25年4月に実施隊を設置し、協議会と連携した対策を実施。

平成26年に「いのしし等対策課」を新設するとともに、「いのししパトロール隊」による柵やわなの見回りなどを実施。生息環境管理に重点をおきつつ、柵の設置や捕獲を組み合わせた総合的な取組を行っている。

また、農作物野生鳥獣被害対策アドバイザーを活用し、市全域の住民を対象に「イノシシ被害対策研究会」を継続的に実施し、イノシシの特性や被害対策の正しい知識の普及に努めている。

教育委員会と連携して、小学生を対象としたイノシシ等野生動物に係る勉強会を開催し、さらに市広報において、毎月1頁の紙面を割いて被害対策の記事を連載するなど、地域住民への知識の醸成を図っている。

被害の発生初期段階で、早期に総合的な対策や地域住民の知識の醸成に努める活動などを実施したことで、農作物被害を軽減したモデルとして評価できる。